

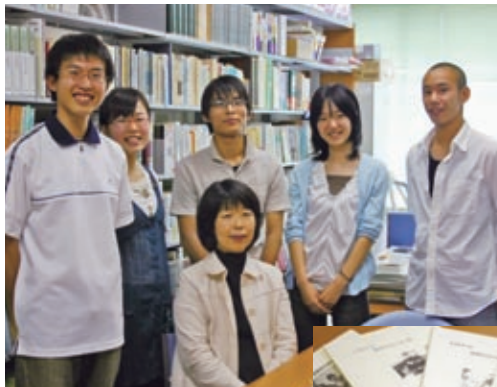
## 高円山を 眺めながら

国語教育講座・教授  
棚橋 尚子

### ■ 研究の風景

私は学部時代、上代文学を専攻し祝詞（のりと）を研究テーマにしていたので、よもや自分が国語教育について大で、教鞭をとるようになるとは思っていませんでした。国語教育を研究するようになったきっかけは、学部卒業後中学校教諭として「荒れる学校」に赴任し、教科教育の重要性を思い知らされたことにあります。

その後、私は大学院、国立大附属小と生活の拠点を



ゼミ所属学生の皆さんと



研究室の文集

変えながら、次第に授業力の高い教員を育てたいと願うようになりました。私が今奈良教育大学にあるのはすべてその思いの結晶のためだと言えます。さて、国語教育という学問領域は、実際には大変広範なものです。そのなかで、ここ十年ほど、私は国語教育の基礎を支える「漢字指導」を中心に研究を進めてきました。学習負担の解明、漢字制限のあり方の検討などを経て、最近では、漢字に付されたルビが漢字習得や読解にどう関係するのかがという点に研究の主眼を置いています。

### ■ 研究室だより

私の研究室は、教員になりたいという強い希望をもった学生や院生の集まりです。ゼミはディスカッションが中心で、毎回活発な討論が繰り広げられます。行事も多く、卒論合宿や卒業旅行などが恒例になっています。また、毎年研究室の文集を発行しています。卒業生や在学生在に原稿依頼をし、自分たちの手で製本まで行っています。行事はすべて学生が企画・運営しますが、これらは、力ある教師になるためのプログラムの一つだと考えています。

高円山を望む位置にある私の研究室は、基本的に学生には開放していませんが、コーヒースタロンとしてみなさんの憩いの場となっています。主（あるじ）はちよっとばかり怖いようですが、どうぞいらしてください。

## 算数・数学が 好きですか？

数学教育講座・助教  
川崎謙一郎

専門は、可換代数学です。可換代数という広い意味を持ちますが、しばしば特異点の種類判定に用いられる局所コホモロジー加群そのものの構造に焦点を当てて、現在研究に取り組んでいます。関連する種々の論文を読んでは、その理論の美しさに日々感動しております。可換環の類にGorenstein環というのがあって、ある種ヘッケ環の性質がそれにあたり、それがFermat予想の解決（1994年）に重要な役割を演じたこととです。学部卒論指導については、本研究室では、やさしい数学の本の輪読一冊読破を目指しています。一方で、沢山のことを学ぶというよりは、より深い理解を優先しています。代数学の内容を活発に議論できたら最高ですね。本学での教育に関しては、広い意味での代数学において自分が受けてきた本当に小さな感動を、自分の言葉で学生の人々に伝えていきたいと考えています。「数学」に限ったことではないのですが、こと理数科教育に関しては、大学教育での学びですら目先の実用性や有用性が叫ばれ、数千年におよび人類が培ってきた純粋な学問としてのその大切さや重要性が軽視されて来ているのではないかと、学校教育現場を含め、日本の理数科教育の危機的状況が思われてなりません。



ゼミの学生と



対称性を記述する数学

数学は4000年の歴史を持つと言われています。少なくともEuclid原論（およそ紀元前3世紀）が世に出て以来、即物的にお金になるために数学が進展してきたとは考えられません。でも数十年前、数百年前の数学が現在の私たちの実生活や私たちの社会に貢献していることは紛れのない事実です。それを知っている諸外国の国々は、数学を非常に大切にしています。いろいろな人々の努力にも関わらず、今もなお、日本の学校教育における「理数科嫌い」問題の議論は絶えないところですよ（なぜでしょう？）。本学の教育の土壌で育った学生には、数学を学ぶにおいて常に向上心を持った数学教員になつてもらいたいし、数学の本当の面白さ、大切さを伝えてもらえる「算数・数学の伝道師」になつてもらいたいと希望しています。大きくなくていい、数学を学ぶ上で小さな成功体験を数多く積み重ねて欲しいと願い、そして算数・数学の本質を理解している算数・数学の教員になつて欲しいと願いつつ、日々の授業の教材を毎日毎日こつこつと考えています。算数を教えるだろう学生のみならず、数学を教えるだろう学生のみならず、算数・数学が好きですか？

# 教育大学における 教育と研究に奮闘中

生活科学教育講座・教授  
内田恵美子

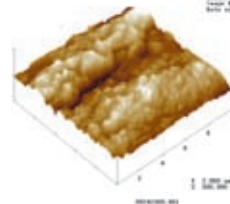
## ■教育（専修専門科目）において

学校教育教員養成課程では、多くの他教科科目の履修が義務付けられ、被服学の必須科目は僅か2科目です。この中で、学生に教員として「家庭」の授業を担える知識と技能を習得させねばなりません。そのため、効率よく知識を体感的に習得できる学外実習（衣服が製品になるまでの全行程を行っている工場見学）を組み入れたり、理論に裏付けられた確かな技術を伝授する工夫など、限られた時間でより多くの成果を挙げる手法を日々模索しています。

## ■教育（教養科目）において

現在、学生も児童生徒もファッションには大きな関心をもっていますが、被服を身に着けることは、環境問題や健康、社会性、特に、非言語コミュニケーションの有効な手段であることなどを含んだ重要な事柄であることが認識されています。この重要性を認識してもらうために開講したのが「ファッション考」です。学生自らが思いをめぐらす講義にしたいと、方々に情報網をめぐらし、できるだけ

工場見学  
（ニット編み上げ工程）



ポリ乳酸繊維の加水分解によるクラックAFM像（10 μm）

最新の話題を織り込み、興味を持つ内容にするために奮闘しています。

## ■研究において

家政学における被服学は工学と異なり、人間を中心とした学問です。私の研究は一貫して「ヒトにやさしい衣服」をテーマにやってきました。教育大では研究資金も設備も限られていますので、その中で行える研究を模索しています。最近では、衣服の安全性を確認する手法の開発と、環境にやさしい繊維の研究を行っています。前者は三次元培養皮膚を用いて、被服に使われている接触皮膚炎を引き起こす可能性のある加工剤や処理剤の安全基準を確立することです。後者は原子間力顕微鏡（AFM）を用いて生分解性繊維の分解挙動を研究しています。学生は着心地のよい衣服の設計などにも取り組んできました。

# 子どもたちのために 障害児のために

教育実践開発講座・教授  
郷間 英世

## ■近況

特別支援教育（障害児医学）を担当していますが、教育大学に来る前は小児神経医として、発達障害や慢性神経疾患の子どもと関わってきました。現在も大学教員として、また小児科医として、障害や病気を持つ人や家族とのつながりのなかで、仕事や研究を行っています。

## ■研究について

「QOL（クオリティオブライフ、生活の質）」が、私の研究の一つのテーマで、「障害や病気を持つ人も持たない人もQOLは本質的に同じである」という立場から、重度の障害や病気を持つ人のQOLが豊かになることを願って研究を進めています。

もう一つの研究は、「現代の子どもたちの発達」です。最近の子どもたちの発達は変容してきています。特に、描画能力の遅れは著しく、三角形が描けるようになるのは、20年前の子どものちに比べ8カ月遅くなっています。さらに、人物の絵もアンバランスで、これ

は男児で著明です。また、絵がかけない子どもは、「集団行動ができてにくい」「きれやすい」など、行動上の問題を持つ子どもが多いようです。

## ■ゼミなど

担当している学生は、学部、情緒障害特別専攻科、大学院に在籍しており、ゼミの中で、各自テーマを持って研究しています。他に月に1回、土曜日研究会があります。ここでは、現職教員、心理士、他大学教員などの卒業生も参加して、現場での事例や研究結果を持ち寄って年齢や立場を超えて討論します。

また、レクリエーションも大事な学びの場です。山登りは四季を問わず行っており、雄大な自然の中で感じる風や香りは新たな活力となり、興味の幅も広がります。そのおかげかゼミ生たちの結束力（？）も高まり、そこでは活発な意見が飛び交います。

相談にこられた、子どもさんと院生



1昨年の学生と雪山スノーシュー